

【トークセッション】

地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは

パネリストのご紹介

パネリスト(敬称略)

島岡 未来子 氏(早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授／
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)
吉田 喜美夫 氏(認定特定非営利活動法人長野県NPO センター コーディネーター)
堺 勇人 氏(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長)
水上 聰子 氏(アルマス・バイオコスモス研究所 代表)

コーディネーター

原 理史 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

トークセッションの進め方

- 関係するEPO中部での関連する議論の紹介

- 地域循環共生圏づくりの活動＝「ローカルSDGs活動」の評価の考え方
- 「ローカルSDGs活動」に対する中間支援の評価の考え方

- ディスカッショントークの論点メモ

1. 中間支援とは活動団体に対して何を行っているのか、何を行うべきなのか
2. 「地域循環共生圏づくり」のための中間支援主体は具体的にはどうあるべきなのか
3. 「地域循環共生圏づくり」のための中間支援の意義と必要性

環境省EPO中部 活動評価手法検討WKG（対象：ローカルSDGs活動）

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター長 教授、中部ESD拠点協議会事務局長
水上聰子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）事務局長
原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員
【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課
【事務局】清本三郎 中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部）

平成6年度	富山	6月5日	第1回検討会
	名古屋	9月18日	第2回検討会
	福井	11月12日	第3回検討会

平成7年度	名古屋	6月2日	第1回検討会
	富山	7月23日	第2回検討会
	名古屋	6月2日	第3回検討会

有識者によるワーキンググループにより、地域循環共生圏づくりの活動の評価手法を検討する

“地域循環共生圏”とは

● 地域循環共生圏(出典:第六次環境基本計画p45)

a. 地域資源を活用して環境・経済・社会を統合的に向上する事業

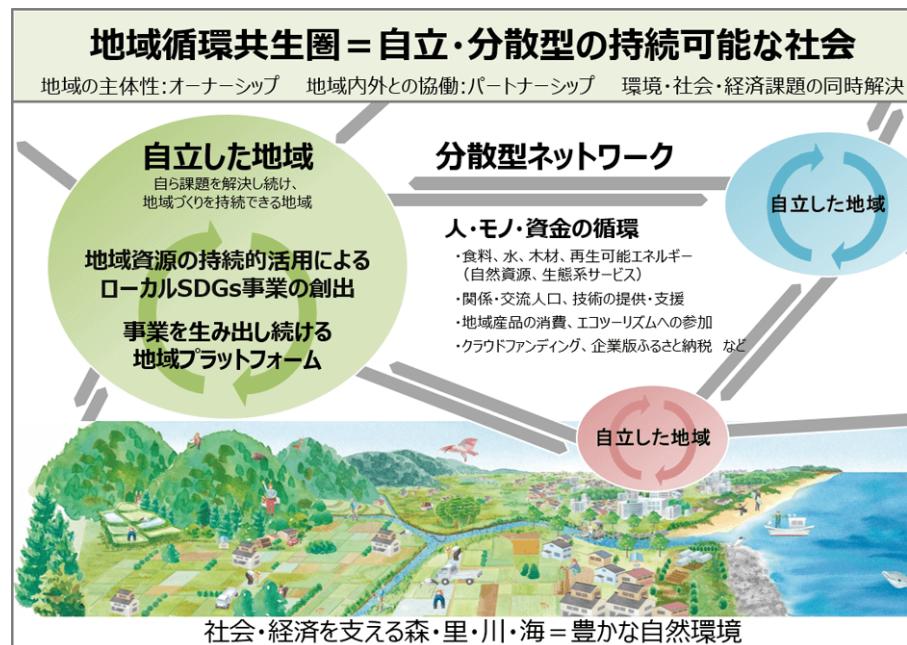
地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業を生み出し続けることで、地域課題を解決し続ける「自立した地域」をつくる。

b. 個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する

それぞれの地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」の実現を目指す。

c. 自然資本を維持・回復・充実していくことが前提

私たちの暮らしは、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を含めて地上資源を基調として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提となる。



<http://chiikijunkan.env.go.jp/shiru/>

出典:第28回(2025年度)日本環境共生学会学術大会発表
スライド「地域循環共生圏の活動を評価する枠組みの検討」

“地域循環共生圏”が産み出し“地域循環共生圏”を支える「ローカルSDGs事業」

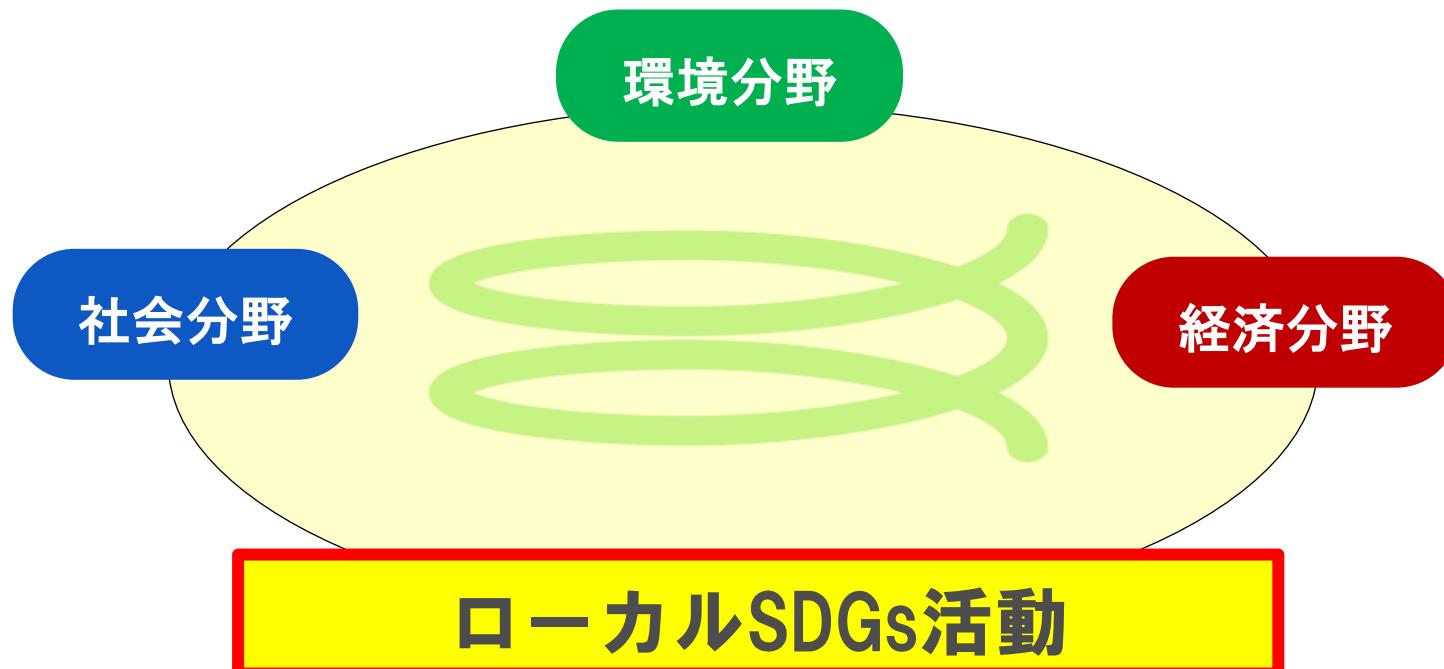
- 自立した地域をつくるため生み出す「地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業」で地域課題を解決し続ける

環境省の【ローカルSDGs 事業の条件】

- ① 地域資源(人・モノ・金・情報)を持続可能な形で活用している
- ② 地域の環境・社会・経済課題の同時解決をする
- ③ 採算性が考慮され、一定の継続性が見込まれる

※ローカルSDGs 事業は営利事業だけでなく、行政機関の政策に基づく各種施策、企業のCSR活動、ボランティア活動など様々な形態の取組を含みます。**=「ローカルSDGs活動」**

(地域循環共生圏づくりの手引き 2024年4月環境省地域循環共生圏推進室)



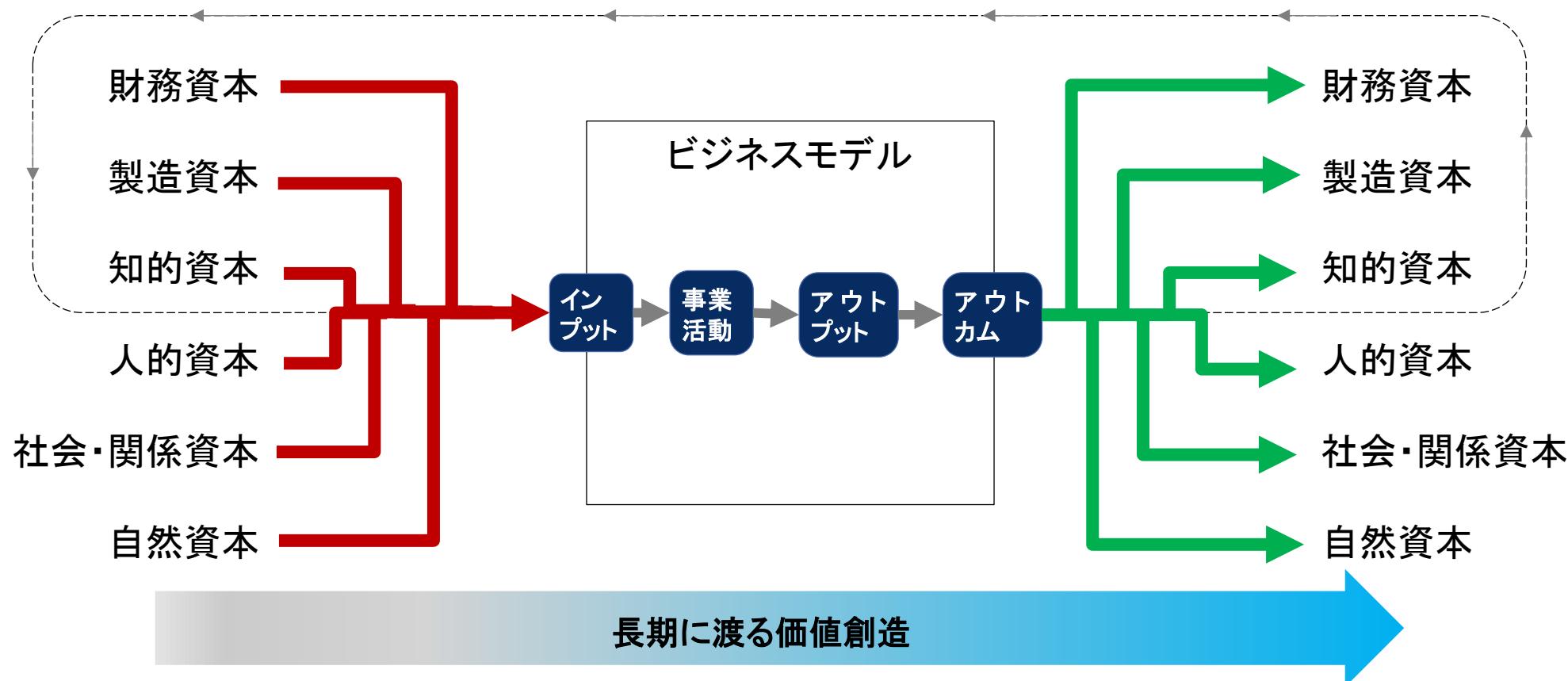
「ローカルSDGs活動」評価の価値基準

地域循環共生圏の価値観を基準とし、
地域に存在する「**資本**」に着目する

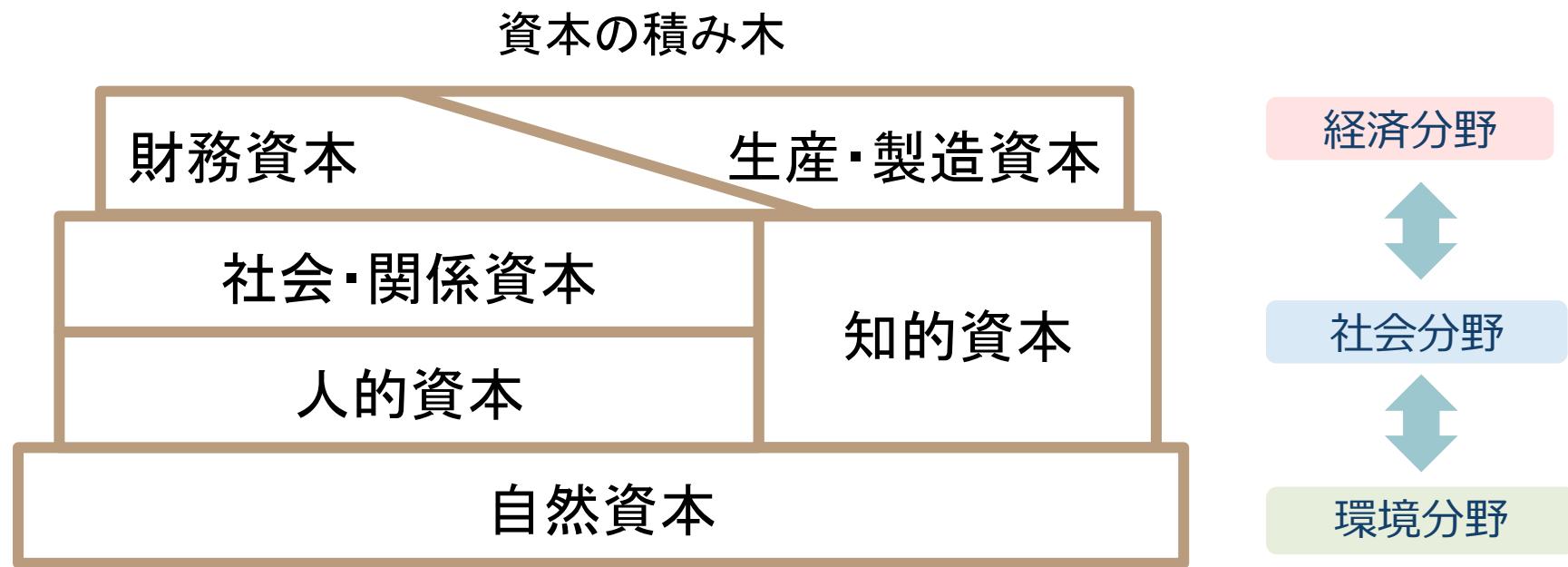
ローカルSDGs活動の効果が環境、社会、経済の各分野に波及し、それぞれの分野に関わる地域の資本が蓄積されること、
その際に地域に関わらず自然資本の維持・回復・充実が図られること

オクトパスモデル（事業による六つの資本の増加）：IIRCのフレームワーク

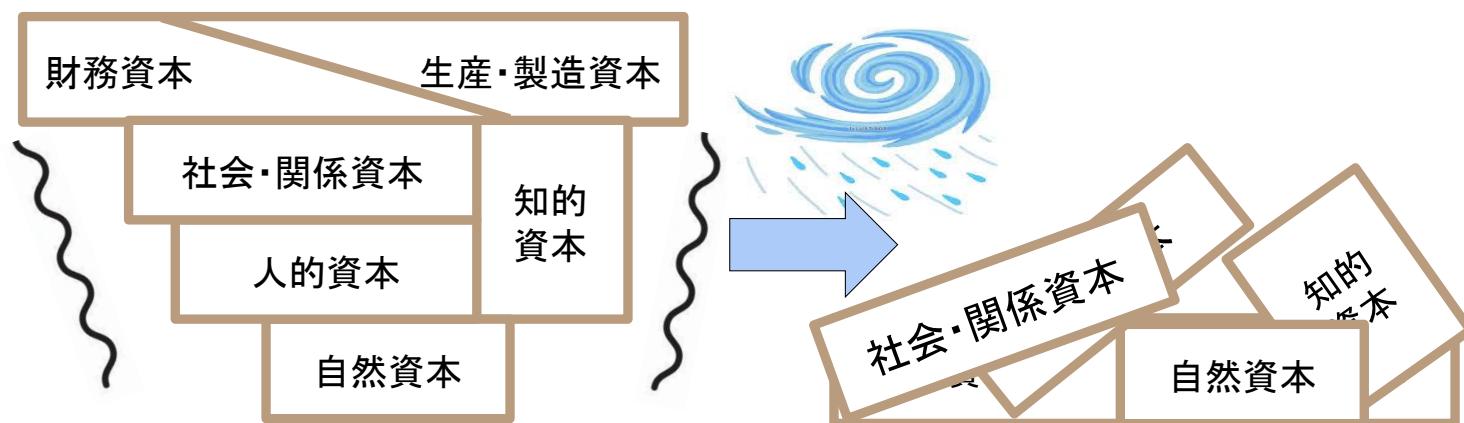
IIRC : International Integrated Reporting Council (国際統合報告評議会) の略称。財務資本の提供者が利用可能な情報の改善、効率的に伝達するアプローチ確立等を目指し2010年にA4S (The Prince's Accounting for Sustainability Project) とGRI (Global Reporting Initiative) によって設立。規制者、投資家、企業、基準設定主体、会計専門家及びNGOにより構成される国際的な連合組織。



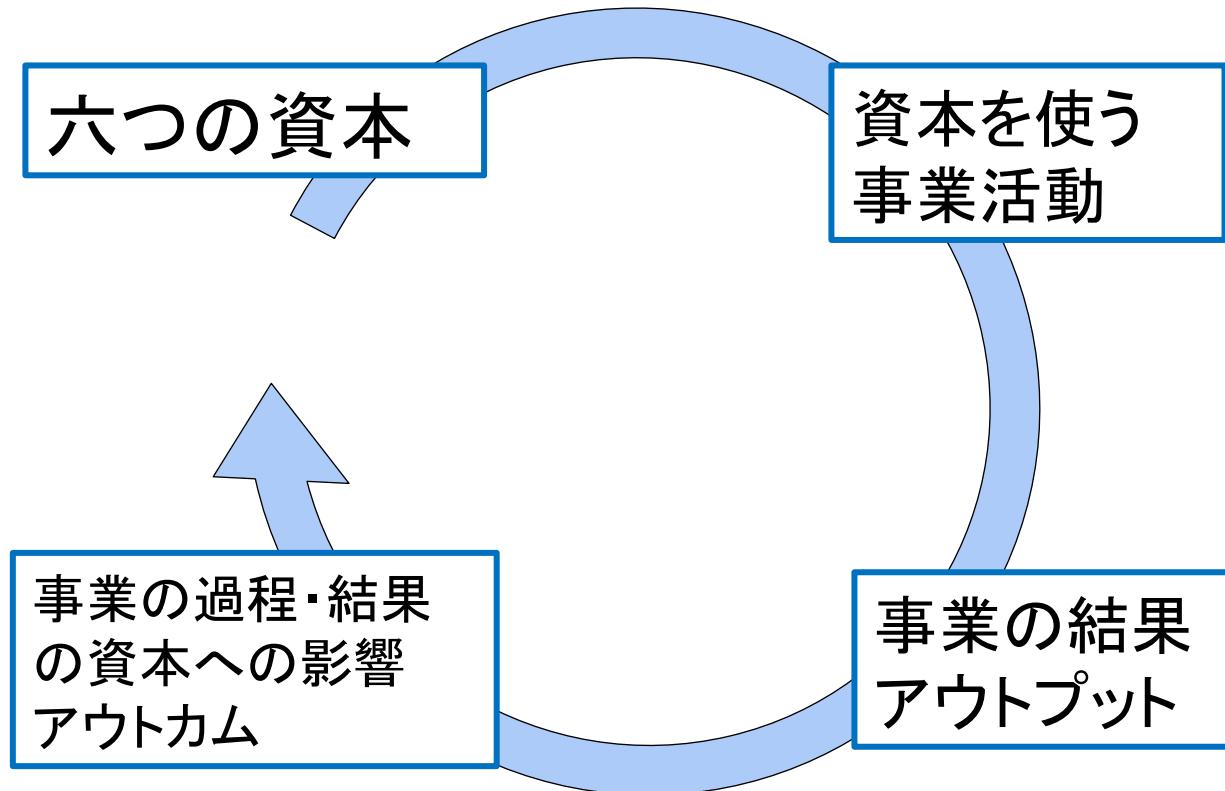
資本の積み木



- 崩れない資本のバランスが持続可能性にとって重要



六つの資本を活かした持続可能な事業の考え方



出展：佐藤真久・広石拓司（2020）ソーシャル・プロジェクトの担い手 持続可能な世界に向けて好循環を生み出す人のあり方・学び方・働き方，みくに出版

地域循環共生圏取組チェック（評価）

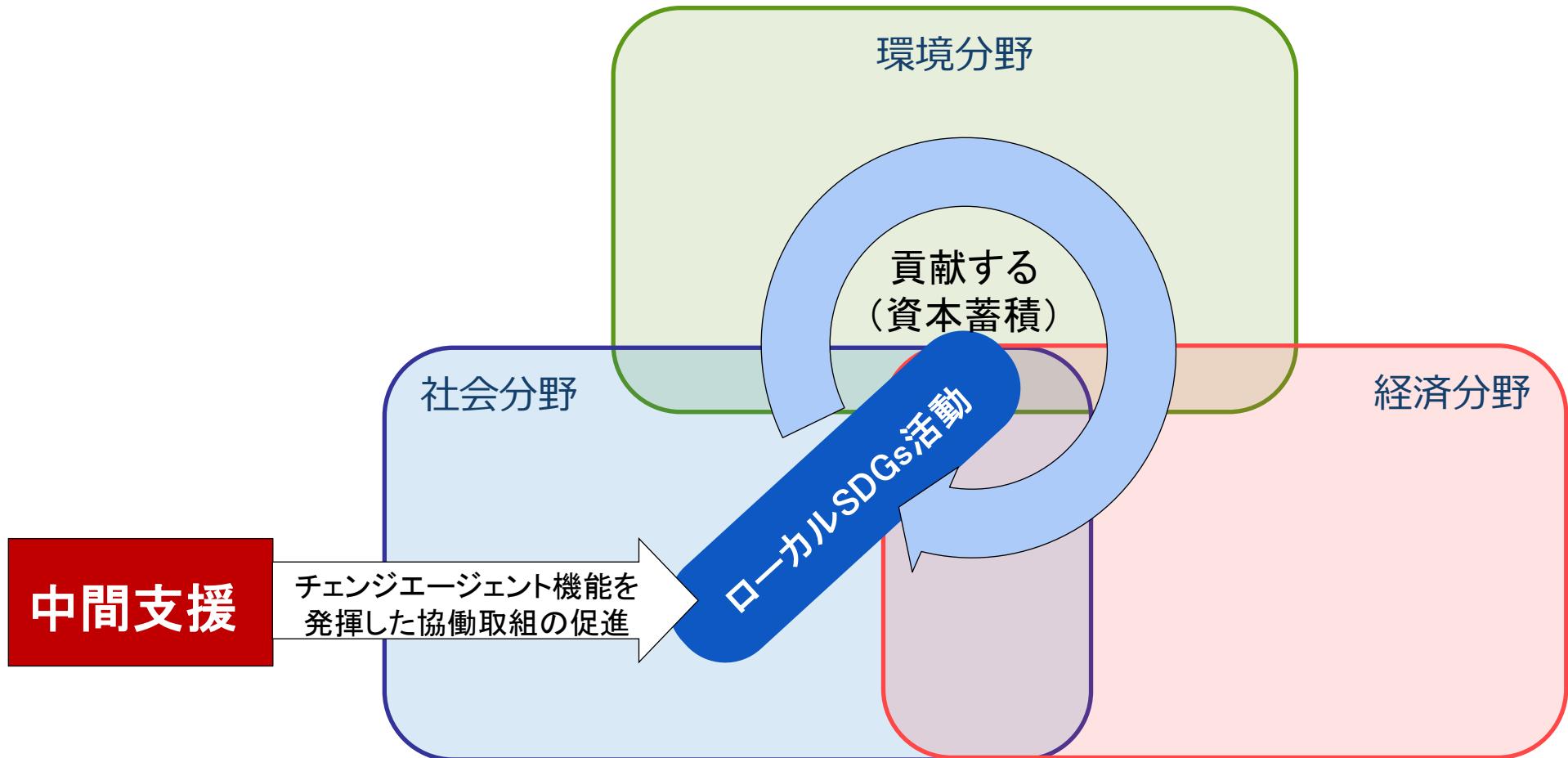
- その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、事前チェックリスト（案）

六つの資本	評価項目の例
1 財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消を目指しているか ● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを使おうとしているか ● 防災・減災に役に立つか
3 知的資本 (地域共生 知的資本) : 地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な場面での教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ● 高等知見の導入をしようとしているか ● ICT活用を進めようとしているか
4 人的資本 (地域共生 人的資本) : 地域の多様な人々が共生できているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 主体的・意欲的な人がいるか ● 愛着・誇り・責任感のある人がいるか ● 包摂社会を目指しているか
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本) : 地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正さに重きをおいているか ● 共助を取り入れようとしているか
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本) : 地域の自然・生物多様性が守られているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 脱炭素を進めようとしているか ● 自然資源の保全活用を進めようとしているか ● 農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか

中間支援と協働取組：地域循環共生圏

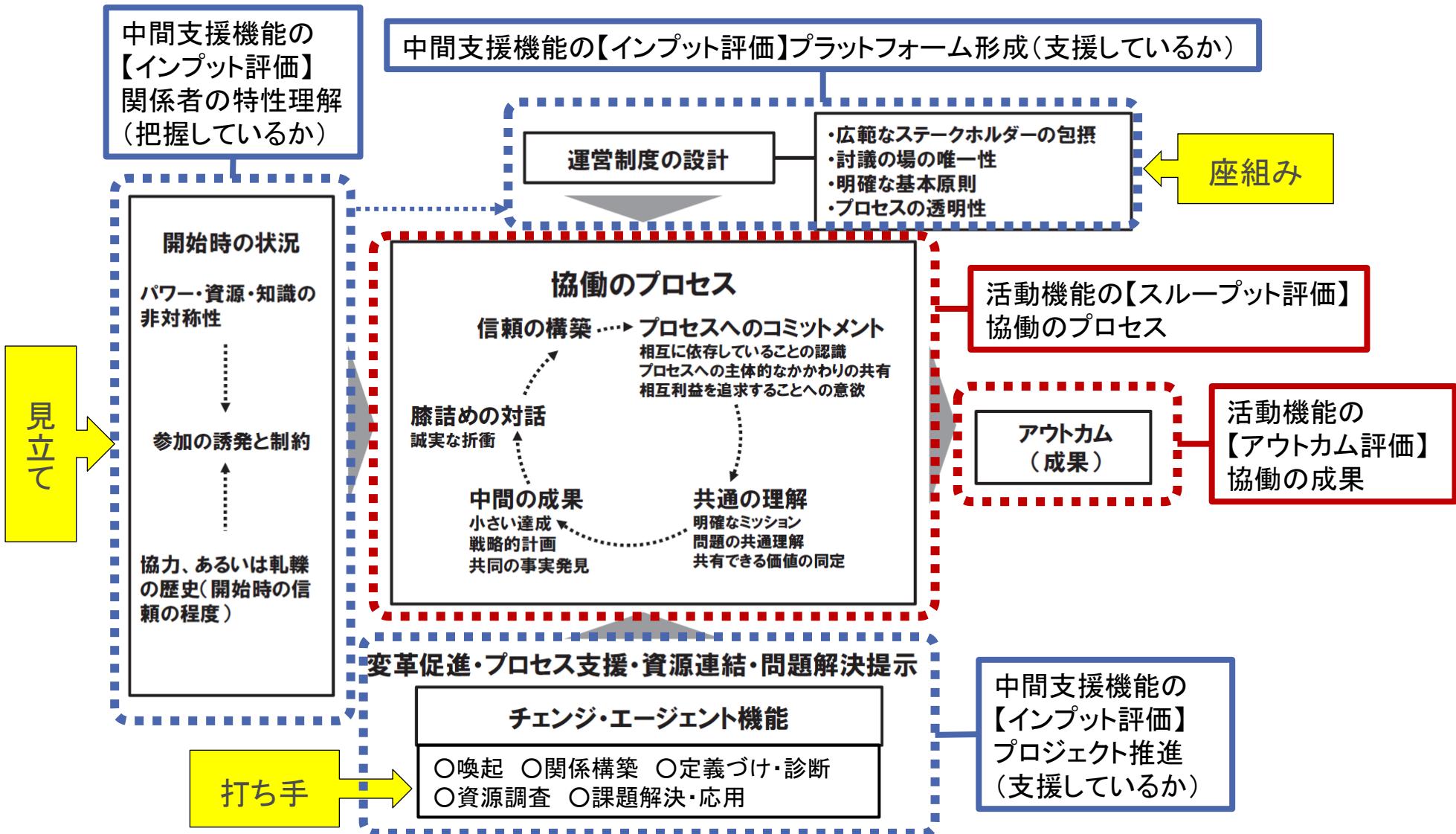
● 地域循環共生圏における中間支援

協働取組を通じて社会、環境、経済に貢献(関わる資本を蓄積させる)



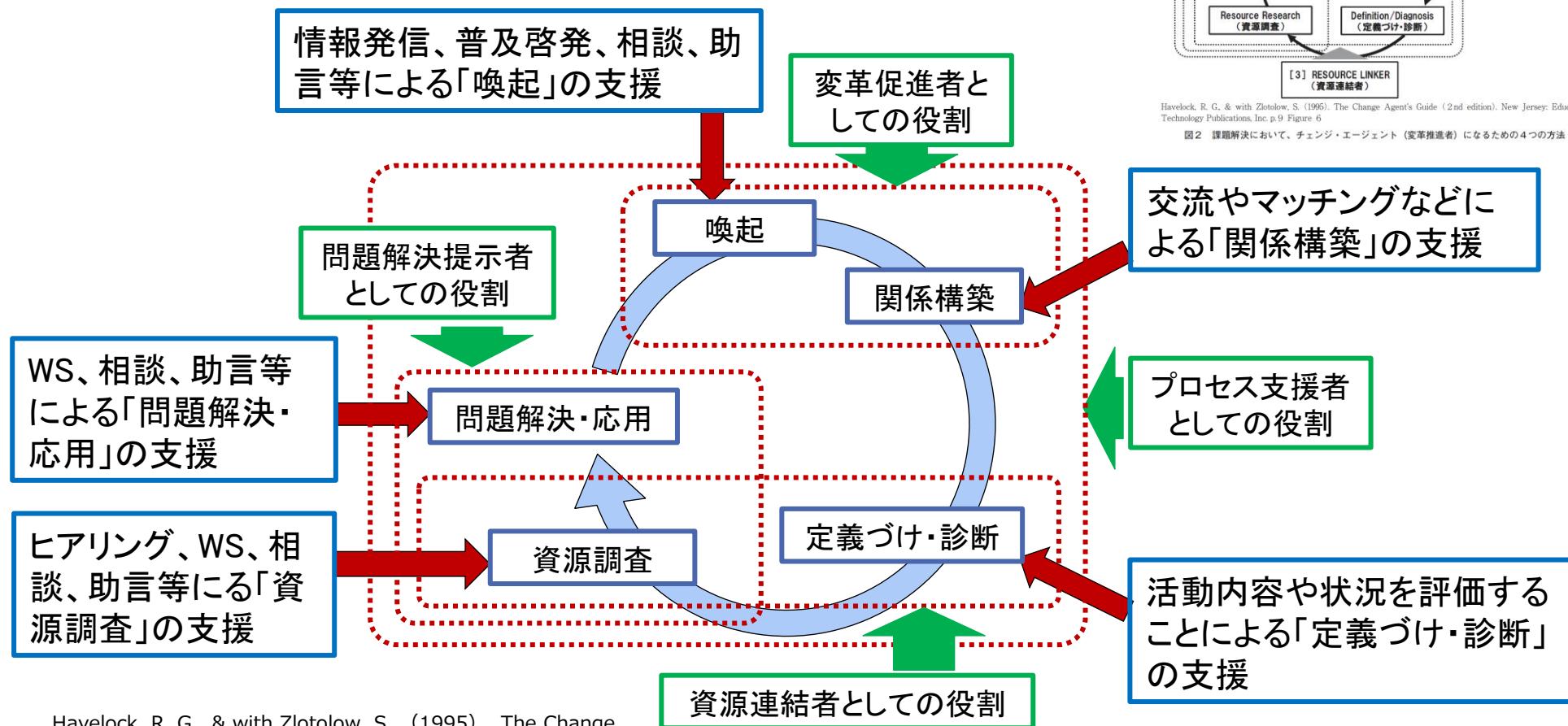
社会変革を目的とした中間支援：「見立て」と「座組み」と「打ち手」

協働における中間支援機能モデル(佐藤・島岡、2014)を元にした中間支援機能、活動機能を視点とした評価対象



中間支援「打ち手」：「変革」チェンジエージェント機能を活かしたプロジェクト支援

「変革促進者」、「プロセス支援者」、「資源連結者」、「問題解決提示者」の4つのチェンジエージェント機能を果たすために、「喚起」、「関係構築」、「定義づけ・診断」、「資源調査」、「課題解決・応用」の5つのプロジェクト支援を行う。

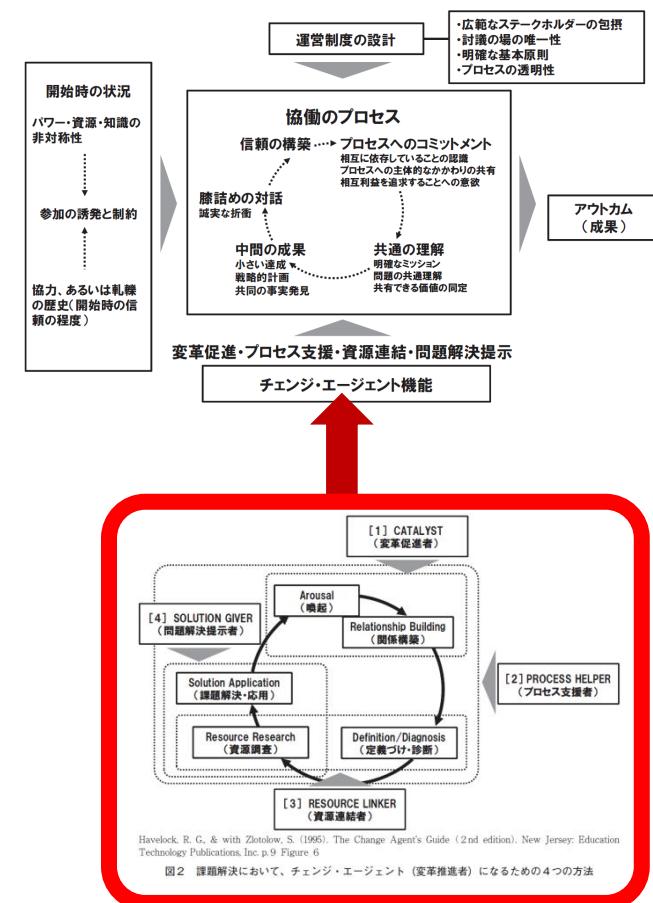


Havelock, R. G., & with Zlotolow, S. (1995). The Change Agent's Guide (2nd edition). New Jersey: Education Technology Publications, Inc. p. 9 Figure 6 を元に作成

中間支援組織の機能評価リストの提案 「打ち手」のチェック【インプット評価】

対象プロジェクト推進時の協働プロセスにおいて、活動団体のプラットフォームに対して「打ち手」として「チェンジエージェント機能」が発揮できているか

支援分野	内容例	できてい ること	よりでき ること
変革促進	喚起	情報発信、普及啓発、相談、助言等によるやる気等「喚起」の支援ができているか	
	関係構築	交流やマッチングなどによる「関係構築」の支援ができているか	
プロセス支援	定義づけ・診断	活動内容や状況を評価することによる「定義づけ・診断」の支援ができているか	
	資源連結	ヒアリング、WS、相談、助言等により「人の金ごと」等の「資源調査」の支援ができているか	
問題解決提示	課題解決・応用	WS、相談、助言等による「問題解決・応用」の支援ができているか	



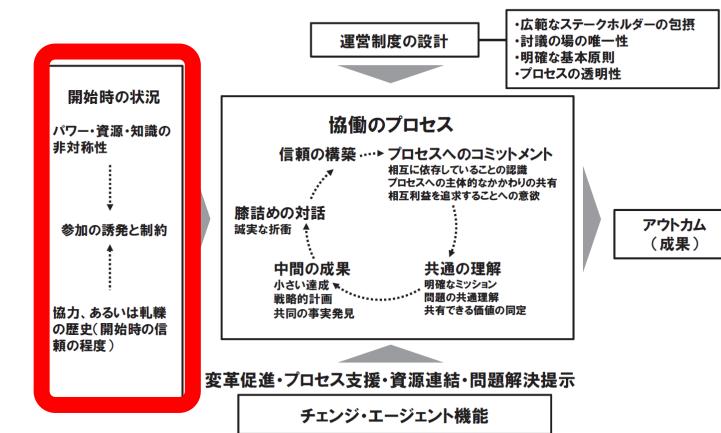
Havelock, R. G., & with Zlotow, S. (1995). The Change Agent's Guide (2nd edition). New Jersey: Education Technology Publications, Inc. p.9 Figure 6

図2 課題解決において、チェンジ・エージェント（変革促進者）になるための4つの方法

中間支援組織の機能評価リストの提案 「見立て」のチェック【インプット評価】

対象プロジェクトの協働プロセスにおいて、事前に、また隨時に、取り巻く状況(非対称性)について把握、分析ができているか

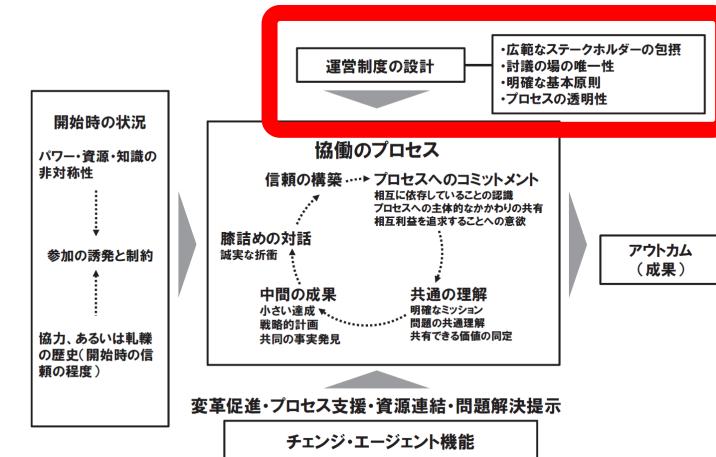
取り巻く状況	把握・分析対象	できていること	よりできること
関係者特性	ステークホルダーおよびその候補の、パワー、資源、知識の現状と関係性		
地域資源特性	対象地域、関係地域で利用可能な「人、もの、金、こと」などの資源		
地域状況特性	環境、社会、経済の現状、これまでの歴史的経緯		
プロジェクト特性	プロジェクト内容及び上記の把握を踏まえた見通し(例えば) ・実現可能性 ・ボトルネック ・地域社会への貢献(アウトカム)予想		



中間支援組織の機能評価リストの提案 「座組み」のチェック【インプット評価】

対象プロジェクトの協働プロセスにおいて、プロジェクトの協働ガバナンスを担保するプラットフォーム「座組み」を継続的に提案、形成支援できているか

運営制度 の設計	提案・支援の対象分野	できてい ること	よりでき ること
広範なス テークホル ダーの包 摂	関係者特性、地域資源特性、地 域状況特性プロジェクト特性、の 把握・分析(見立て)に基づいた、 必要で広範なステークホルダーの 参加		
討議の場 の唯一性	会議形式などプラットフォームで の議論がプロジェクト推進に過不 足なく反映できる体制の形成		
明確な基 本原則	プロジェクト推進の基本原則の共 有(例) ・プロジェクトの目標、計画、予算 ・説明責任、ステークホルダーの 役割と倫理		
プロセスの 透明性	プロジェクトにかかる情報が関 係者に開示され、様々な意見が 共有できる体制		



ディスカッショントークの論点

1. 中間支援とは活動団体に対して何を行っているのか、何を行うべきなのか
2. 「地域循環共生圏づくり」のための中間支援主体は具体的にはどうあるべきなのか
3. 「地域循環共生圏づくり」のための中間支援の意義と必要性